

大津町議会 議会改革推進特別委員会行政調査報告

氏名 清原 さおり

視察研修名：大津町議会改革推進特別委員会行政視察

研 修 先：①福岡県 志免町

②福岡県 粕屋町

期 日：令和7年11月20日（木）～21日（金）

研修テーマ：①議会活性化の取り組みについて

②議会活性化の取り組みについて

研修報告 意見・感想

1 11月20日（木）13時半～ 福岡県志免町の議会活性化の取り組みについて

議会基本条例の制定経緯や取り組み状況について説明いただいた。「勢いで作った」と話されていたが、実際には検討をしっかりと重ね、住民との意見交換も行い、段階を踏んで制定されたことが分かる内容であった。また、議会基本条例を最高規範として位置づけ、議員全員に理解してもらうため研修を必ず行うという説明にも納得した。

さらに、条例の中に「議会と町民との意見交換会（語る会）」を実施する条項を盛り込むことで、今後も継続して語る会を開催できる仕組みが担保されている。まずは議会基本条例の制定が大前提だが、その後も見直しや改定を行い、常にアップデートしていくことが重要であると感じた。あくまで目的は町の発展と住民福祉の向上であり、条例制定はスタートであってゴールではないという点を再確認した。

「志免町議と語る会」については、これまで15回開催され、毎回多くの参加者があるとのことで、非常に素晴らしい取り組みだと感じた。当町でもぜひ実施したい。プロジェクトチームを組んで取り組んでいる点も参考になる。また、ワークショップ形式を採用し、各議員が一つのグループの進行を担当することも素晴らしい。ファシリテーション研修も実施しているとのことで、大いに刺激を受けた。

語る会を議会広報の記事として掲載している点も非常に良い取り組みであり、広報委員としてもすぐに参考にしたい。また、各種団体が要望すれば懇談会を開催できる制度があり、要綱を整備した上で10人以上の住民団体が申し込める点も優れている。当町でも導入したい仕組みである。

さらに、特筆すべきは議員紹介動画・議会活動紹介動画である。業者に制作を依頼したとのことで、視聴者の興味を惹くキャッチーな出来映えだった。議会公式SNSもInstagram、Facebook、YouTubeに加え、公式ホームページを積極的に活用しており、「開かれた議会」を体現している。昨年末には議場で志免吹奏楽団による議場コンサートも開催され、今年も実施予定とのこと。このような町民に親しみを持ってもらおう広報活動は、当町でも積極的に取り入れていきたいと強く感じた。

2 11月21日（金）10時～ 福岡県粕屋町の議会活性化の取り組みについて

粕屋町議会でも議会基本条例が制定されているが、昨年12年ぶりに条例改正を行ったとの説明があった。議会改革を進めるにあたり、まず取り組むべきは議会基本条例の検証であり、すべての根拠となる条例の整備が重要であることを再確認した。また、志免町議会と同様、全議員を対象に議会基本条例の研修会が実施されていた。「議会全体でものさしを合わせることが大切」という説明には深く同意した。今後は基本条例の達成度検証も計画されている。

粕屋町議会でも議会報告会が実施されており、町民との交流や意見交換が活発に行われている。住民有志が司会・進行を務めた会もあったとのことで、こちらも良い取り組みだと感じた。要望が上がった場合は常任委員会単位で受けるとのこと、この点も参考にしたい。

議員活動の見える化として SNS の活用が進められているほか、議会モニター制度「CCP（Co-Creative Partner＝共に創造するパートナー）」を導入している点に興味を持った。定員20名に対し28名の応募があったとのことで、町民の関心の高さが窺える。地域・年代・性別も多様で、多角的な意見が収集できる良い制度だと思う。町民運動会などのイベントでアンケートを実施するなど、まさに開かれた議会を実現している。

末若議長の「これからは協働ではなく共創です。行政や町民と共に創る、共創社会の実現に向けて進んでいく」という言葉が印象的で、これからの議会の方向性を示すものであった。非常に実り多い視察研修であり、すぐに取り入れられる点は積極的に導入していきたい。

<総括>

2 議会の視察研修であったが、いずれも明るく活発な印象を受けた。現在取り組まれている議会活性化の成果が、雰囲気として表れているのだろう。議会はもちろん厳粛な場である。しかし、町民から敷居が高いと感じられてしまっては、多様な意見を吸い上げることは難しい。議員活動は厳粛に、しかし議員本人は親しみやすく——その姿勢を心がけたいと感じた2日間であった。